

ま え が き

近年、マスメディア等でたびたび見聞きするようになってきた気になる言葉の一つに「目線」という表現があります。いわく、「消費者目線」、「生活者目線」、などなど。教育の領域でも「保護者目線」、「子ども目線」などといった表現を用いてあれこれと語られる頻度が増えてきているように思われます。このような「目線」という言葉の多用は、グローバル化し変容著しい現代社会にあって、物事を多角的複層的に見ていくことの大切さを喚起しようとしているといえそうです。幼児教育に携わる者にとって、日々の具体的な取り組みのなかで「保護者目線」や「子ども目線」という表現が含意する複眼的視点を一層磨き上げることはひととき重要な課題となってきているように思われます。

さて、昨今の子どもを取り巻く生活環境への注目から、幼稚園教育の学校制度上の位置づけにはこれまでに比類のない程のまなざしが注がれるようになってきており、これに対応した保育内容の改善と深化が目指されつつあるといえます。平成18年に抜本的改正をみた教育基本法では「幼児期の教育」条項を新設したところであり、「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの」と明言しています。これを受けて平成19年に大改正された学校教育法では法形式のうえでも学校教育体系の出発点として制度的に位置づけています。

また、保育内容面では幼稚園教育要領を平成20年に改訂するなかで、「人格形成の基礎を培う」という趣旨を確認しつつ、幼児期の特性をふまえながら「生きる力の基礎」を形成するというねらいを挙げており、このねらいに沿った教育課程内容について提示しています。そこでは、就学前の幼稚園教育と就学後の小学校教育との発達や学びの円滑な連続性の観点をこれまで以上に考慮することを課題としています。

本園では、このような動向をふまえて、平成20年度から「学びをつなぐカリキュラムの編成に向けて」を主題とする研究テーマを掲げて、継続的に研究を進めてきているところですが、とりわけ幼稚園教育を行うなかで小学校以降の子どもの発達や学びを見据えつつ、幼児期に育てるべきことを幼児期にふさわしい生活を通して育成していくことが重要であると考えています。そこで、幼児たちが幼稚園生活を通して幼児期にふさわしい健やかな成長を促すことができるカリキュラムとはどのようにあるべきなのか、またそれらが展開できるようにするためにはどのような園環境が用意されるべきなのか、このような問いを立てて研究を進めてきました。

今年度、本園では6月と11月の2回にわたって保育を公開いたします。これまでの研究の成果も含めて、私たちの取り組みについて多様な観点から見ていただければ幸いです。合わせて、どうぞ忌憚のないご意見、ご指摘、ご感想をいただきますようお願いいたします。

最後に、熱心なご指導をいただきました諸先生方、ご多用の中ご来会いただきました皆様に心より御礼を申し上げ、ご挨拶といたします。

平成22年6月

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園長 田邊 俊治